

宮古民報

2016. 6. 12
第1470号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 823円

再生エネルギー利用をその一翼に

滝澤総務部長 創造的な復旧が課題 母親大会

市民文化会館で開催された「第62回岩手県母親大会（大会）」は午前中は「復興シンポジウム」などをテーマに6会場で分科会が行われました。大ホールでは市から滝澤肇総務部長がその取組みを報告しました。

東日本大震災から5年の大会分科会は田老など被災地の見学分科会以外は「こどもと教育」「くらしと権利」「平和」「社会保障」と題し、磯鶏公民館も会場に行われました。大ホールでは「くらしと生業の今、未来」と題する分科会があり、滝澤部長以外に社協から佐々木伸子さん、田老漁協



大会のオープニング行事で演奏する宮水太鼓部

の小林昭榮組合長、大浦漁協所属の阿部秋子さん、の4人が報告しました。メカソーラーやカーシェアリングの実施状況を紹介、官民連携の重要性をのべました。

避難所の今後課題

滝澤部長は報告の後、参加者からの「福祉避難所の設置と運営課題で宮古市の経験は」との質問に「福祉を高齢者や障害者とすれば被災直後では考えるいとまがなかったが、障害者などが安心して避難所は今後の検討課題」と応じました。また、市の復興への取組みについても「被災前の状態に戻すだけでなく市民が頑張れるまちづくりを目標にしている」と説明しました。

検証 デザインビルド（DB） 4 選定委員会の客観的な役割

DB受注企業を選定し、決定出来たのは宮古市中心市街地拠点施設建設事業設計・施工者選定委員会（委員会）に名前を連ねた5人です。内訳は市職員3人と県立大学職員2人です。

③ 自画自賛の選定総評

委員長に植田眞弘氏（県立宮古短期大学部 学部長）を選出した段階で委員会は、公平を装う機関の役割を担うことになりません。なぜなら委員会の決定は、数に勝る（3対1）市職員の判断どおりにならざるを得ないからです。

「社だけの参加は「残念」？」

委員会は「総評」でDBへの参加表明者が1社（JV鹿島）しかいなかったことを「非常に残念なこと」としています。しかし、提出された提案書については「事業を円滑に取り組むための具体的な事項が記載された優れた提案であり、設計・施工者として申し分のない実績と技術を有する」と結果を合理化しています。委員会には失礼かも知れませんが、1社だけの参加で比較対照ができない選定は「自画自賛」の典型と言わざるを得ず

④ 「基本設計先行型」の意味

真にDVの成果を求めるのであれば、やり直すべきだったと言えます。委員会は駅南側事業を「基本設計先行型」のデザインビルド方式」建物は「複合施設」通行は「宮古駅と線路を挟んだ南北通路」と特徴付け「これまで例を見ない大型プロジェクト」と説明します。しかし、それは地元企業を排除するための伏線です。そもそも「基本設計」がもとのDB公募が真のDBか、疑問も寄せられています。（つづく）

市長挨拶を代読

山本正徳市長の歓迎挨拶を山口公正副市長が代読した。阿部さんの話には涙

「参加者が大勢なのに驚き、すごかった」などの感想が寄せられました。



要望箇所を指さす箱石建設課長

住民の要望事項で現地視察

明各議員が集合し、箱石文夫建設課長から説明を受けました。市が要望者に直接報告側溝を改良する際に路面舗装が出来ないで来たことについて、箱石課長は「側溝の設置工事が2014年度の冬場となり、凍結などで工事の品質確保に難がある」との理由で遅れたと説明、市から当日、留守だった要望者には直接報告して対策をのべ、理解を求めることとしました。

火 漁

5日、市民文化会館は熱気に包まれた。第62回岩手県母親大会IN宮古の1000人を超す参加者が原因▼各分科会も盛況で大会関係者は大成功と評価。全体会議では精神科医の香山リカさんが講演した。誰にでも「底力」があり、その力はふだんは眠っているとか▼分か

